

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	日本語表現法応用Ⅱ						
科目区分	リテラシー科目	単位数	1単位	開講時期	2年次後期		
必修・選択の別	【建築工学コース:必修科目】【建築コース:必修科目】【デザインコース:必修科目】						
担当者	萬川正勝						
授業の到達目標 (シラバスから)	教材:名古屋大学日本語表現研究会著『日本語表現法 書き込み式』(三弥井書店) ・日本語の特性を正しく理解し、使うことができる。 ・日本語の文法を理解し、正しく使用できる。 ・論理的な表現とは何かを理解し、記述・発表できる。 ・上記のような項目を学習し、日本語表現の応用力を修得する。						
日程と内容	第1回:講義概要および履修心得・学習方法 第2回:書き言葉の技能 応用 要旨 第3回:書き言葉の技能 応用 要約 その1 第4回:書き言葉の技能 発展 要約 その2 第5回:書き言葉の技能 発展 レポートの書き方 その1 第6回:書き言葉の技能 発展 レポートの書き方 その2 第7回:書き言葉の技能 発展 論証 その1 第8回:書き言葉の技能 発展 論証 その2 第9回:話し言葉の技能 基礎 敬語 1 第10回:話し言葉の技能 基礎 敬語 2 第11回:話し言葉の技能 基礎 敬語 3 第12回:話し言葉の技能 応用 相手を考えて話す 第13回:総合応用 1 第14回:総合応用 2 第15回:まとめ 定期試験 第16回:総まとめ						
成績評価基準	定期試験 臨時試験 報告書・レポート 課題 演習	50%	実技 部外評価 プレゼンテーション				100%
授業到達目標の達成度	大半の学生は、よく学習して、目標を達成していた。しかし、不十分な点を以下二つ述べる。 1.敬語を「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」の識別は概ねできていたが、相手に応じて適切な敬語を用いて表現する段階では、不十分な学生がいた。 2.「慣用句・ことわざ」の意味の理解が不十分な学生がいた。						
反省点	上記の2点は、当然のことであるが、「できごと視点」で客観的に表現する作業に、苦勞していた。教授法の工夫が必要である。						
来年度の計画	1、レポート・論文などの表現を支えている、「できごと視点」の文体を、「動作主視点」の文体と対比させながら理解させる。そのための工夫をさらに継続していきたい。 2、社会に出て必要な、「敬語」「慣用句・ことわざ」を用いた文が書けるようにさせたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	設問12「授業に集中していたか」ということにおいて、不十分な点があった。日本語に関心を持たせる工夫がさらに必要である。						
履修登録者数	76名	定期試験 受験者数	73名	合格者数	73名	合格率	100%